

自然ふれあい講座を行いました

長野県環境保全研究所では、自然や環境への理解を深めていただくための「自然ふれあい講座」を毎年10～12回程度開催しています。本年度は、野外講座・市民参加型モニタリング・室内講座および実習の別に全14回の自然ふれあい講座を計画し、合計218名の方にご参加いただきました。ありがとうございました。

来年度も、「自然ふれあい講座」の開催を計画しています。巻末のお知らせをご覧ください！

平成25年度 自然ふれあい講座（第13・14回）実施状況

テーマ	開催日時	開催市町村	参加者数
(1) 野外講座			
自然史王国信州を歩く～どこでもHAIKU編～	11/9（土） 13:00～15:30	安曇野市	11
(2) 室内講座・実習			
野生動物の年齢査定の意義と方法	11/10（日） 13:00～16:30	長野市	10
		合計	21

野生動物の年齢査定の意義と方法

担当：岸元 良輔

参加者：10名

近年、ニホンジカが県内で急増して農林業被害だけでなく、自然植生にまで影響を与えています。また、ツキノワグマは人里周辺にまで出没し、人身被害が懸念されています。そこで、環境保全研究所では捕獲された野生動物からサンプルを収集して年齢査定などの分析を行い、被害対策に役立てています。今回の講座は研究所飯綱庁舎で行い、長野県の野生動物の現状と年齢分析から何がわかるかを紹介し、実際に年齢査定の技術を体験していただきました。県内各地や東京から10名の参加者がありました。

年齢査定でどのようなことがわかるかというと、例えば、長野県内で捕獲されるニホンジカでは、若い個体が多くて年齢が高くなるにつれて数が少なくなる典型的なピラミッド型の年齢構成を示しています。これは、今後、個体数が増えることを示しており、このようなデータをもとに捕獲目標数を設定することができます。また、ツキノワグマでは人里に出没する個体の年齢がだんだんと高くなっていることがわかっていま



顕微鏡で歯の年輪を数えたり、マイクロームで歯の切片を作製したりしました。

す。このことから、人里周辺に定着して年齢を重ねるクマが増えていると推測しています。人里周辺ではこのことを前提にクマ対策を行う必要があります。

年齢査定は、歯をマイクロームで0.04mmの厚さに切ってプレパラートにのせて染色し、顕微鏡で年輪を数えることによって行います。参加者の方々には、これらの作業を体験していただきました。